

こととを決議したか、新助團法人中央労働學園は、新團
体の事業として全面的に新たな企畫を樹て、時代に即し
てその推進を圖ることとなつたのである。

第三項 職員の處遇

經濟科學局労働課長コーエニ氏か、昭和廿一年六月三
日の懇談で、協調會の職員には、練達（スキル）の
人々多いから、これは新團體で登用勤務することにされ
るかよいと思ふといふ意向を示されたので、理事會では
前述の事業と同様職員の継承について此新團體と協定す
ることとに決議したか、中央労働學園は新團體の職員とし
て全面的に適材を適所に配置登用したのであつた。

協調會創立以來職を本會に奉仕者數千名、その學識
に於て卓越しその勤務に於て誠實なるもの極めて多かつ
た。前後二十七年にわたる本會の業績は、實にこれ等職
員の努力の結晶といふべきである。本會解散^時に於ける職
員は、總務課長林直通、事業課長飯田北理、調査課長水
上鐵次郎、労働課長村山重忠、農村課長宮本倫彦、大阪
支所長清水慶造氏等を筆頭とし、參事十六名、囑託七名、
書記十二名、その他東京高等工學院に於ける主事高野利
人外教諭四名、これに雇員傭人さかへれば總員六十一名
に及ぶ、尚ほこの外に協調會關係者として東京高等工學
院長和田博士、社會政策學院長大河内教授、その他囑託
連絡員等が居つた。